【報道関係各位】

2025 年 8 月 27 日
株式会社ベネッセコーポレーション
広報部

【進研ゼミ 中学講座】中学生親子間コミュニケーション調査

約 6 割の中学生が「親に言えないこと」を抱えている
「子どもが言えない本音がある」と思う保護者は 8 割以上

親子でズレる価値観―中学生は「SNS」、保護者は「人との距離感」

SNS 時代も親子間コミュニケーションのカギは「会って話す」―親子共に約 7 割が支持

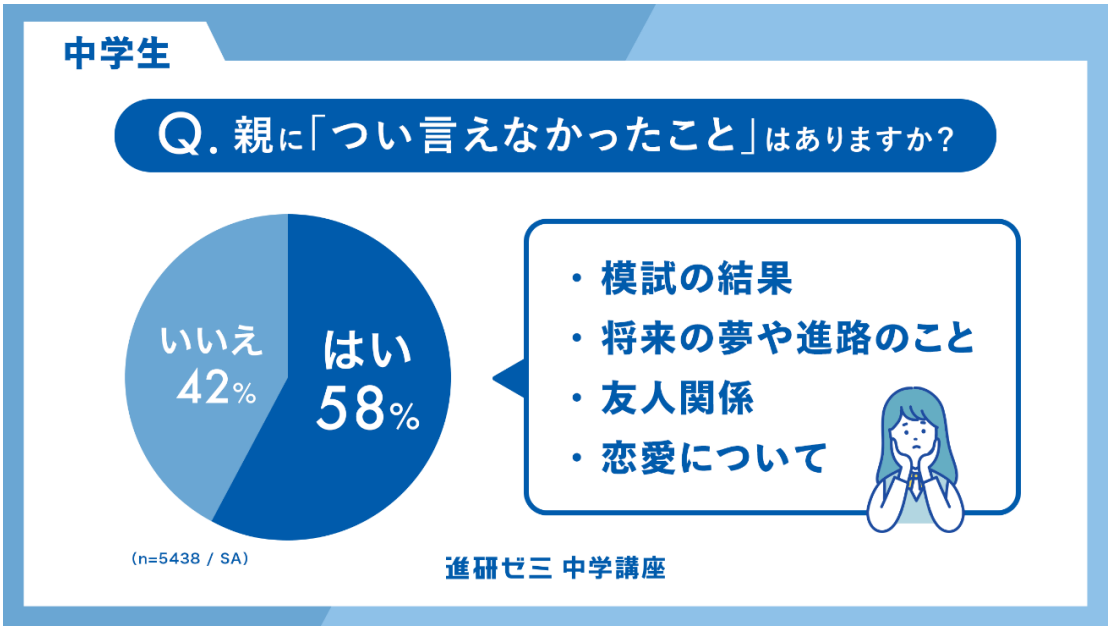
株式会社ベネッセコーポレーション（本社：岡山県岡山市、代表取締役会長兼社長：岩瀬大輔）が提供する通信教育講座「進研ゼミ 中学講座」は、全国の中学 1 年生～3 年生 5,438 名（※1）と保護者 498 名（※2）に親子間コミュニケーションに関する調査を実施しました。

夏休みを終えて新学期を迎える 9 月は、中学生にとって生活リズムや人間関係が大きく変化し、心が揺れやすい時期です。そうした環境の変化のなかで、家庭での親子コミュニケーションは子どもが安心できる大切な土台となります。

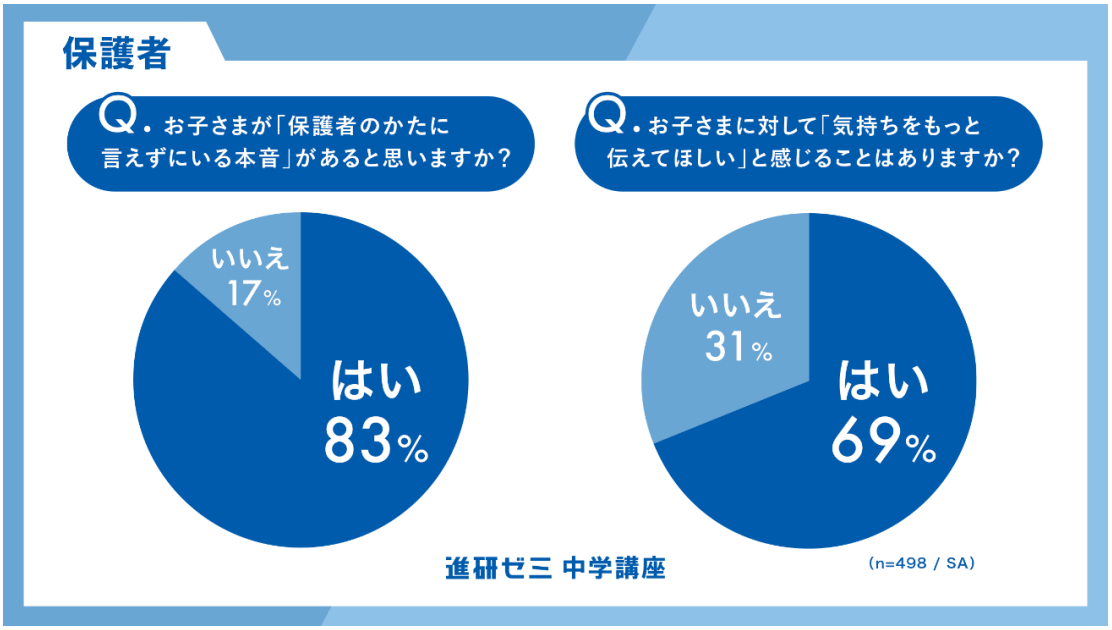
今回の調査からは、中学生の約 6 割が「親に言えないこと」を抱えている一方で、保護者の 8 割以上が「子どもが言えない本音がある」と感じているなど、親子それぞれの認識のずれが浮かび上がりました。さらに、SNS が普及するなかでも親子共に「直接会って話す」が親子のコミュニケーション手段において信頼されていることや、子どもは“自然な空気”、保護者は“意識的な工夫”を重視するなど、会話のスタイルにも違いが見られます。加えて、価値観の違いに関する設問では、中学生は「SNS」を重視する一方、保護者は「人との距離感」など別のテーマを重視しており、令和時代ならではのギャップが見られました。

■約 6 割の中学生が親に「つい言えなかったこと」があると回答。
「子どもが言えない本音があると思う」保護者は 8 割以上。

58%の中学生が「親につい言えなかったこと」があると回答しています。さらに、46%が「親に本当は感謝しているけれど、伝えられていないこと」がある、44%が「今はまだ言えないけれど、いつか親に伝えたいこと」があると回答しており、**中学生の約半数が「親に言えない本音」を抱えている**ことがわかりました。



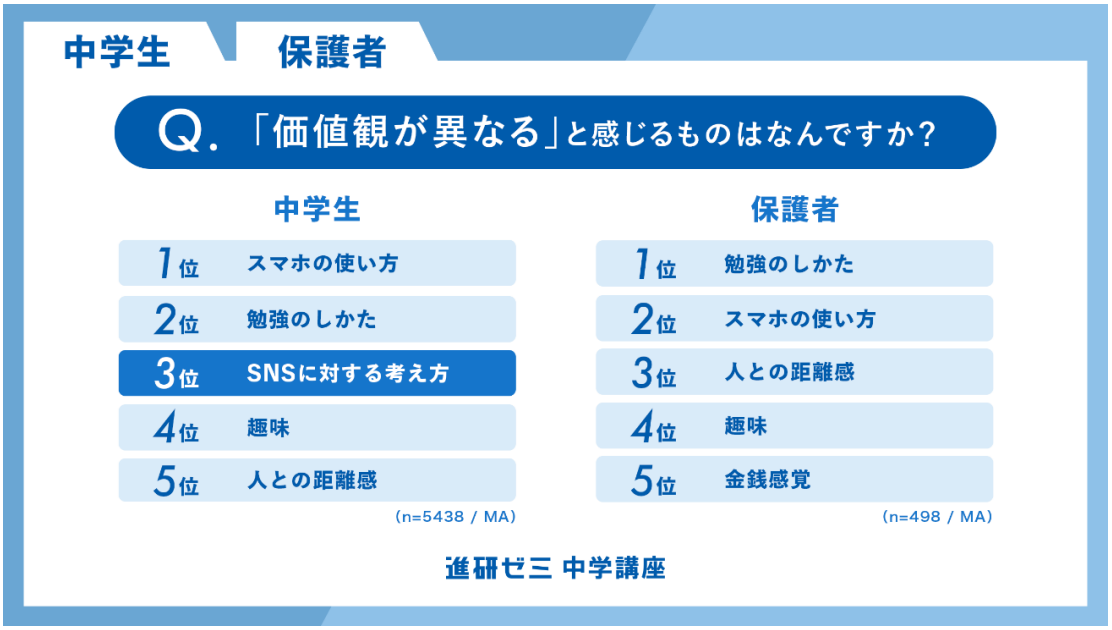
一方で、「子どもが言えない本音があると思う」と回答した保護者は 83%、「子どもから気持ちをもっと伝えてほしい」と回答した保護者は 69%にのぼり、**保護者は子どもの気持ちを察しながらも、子どもからの発信を待つ姿勢が多い傾向**も見られました。



また、「親に感謝していること」の具体的な内容をたずねたところ、「毎日ご飯を作ってくれること」「部活の送迎をしてくれること」「習い事や塾のお金を払ってくれること」などの家事や送迎、経済的支援など、日常的なサポートへの感謝が多く挙げられました。「いつか親に伝えたいこと」についても、「育ててくれたこと」「日々の世話や愛情」「家事・送迎などのサポート」への感謝が多く挙げられ、言葉では伝えられないけれど日常的なサポートに感謝しているという結果になりました。

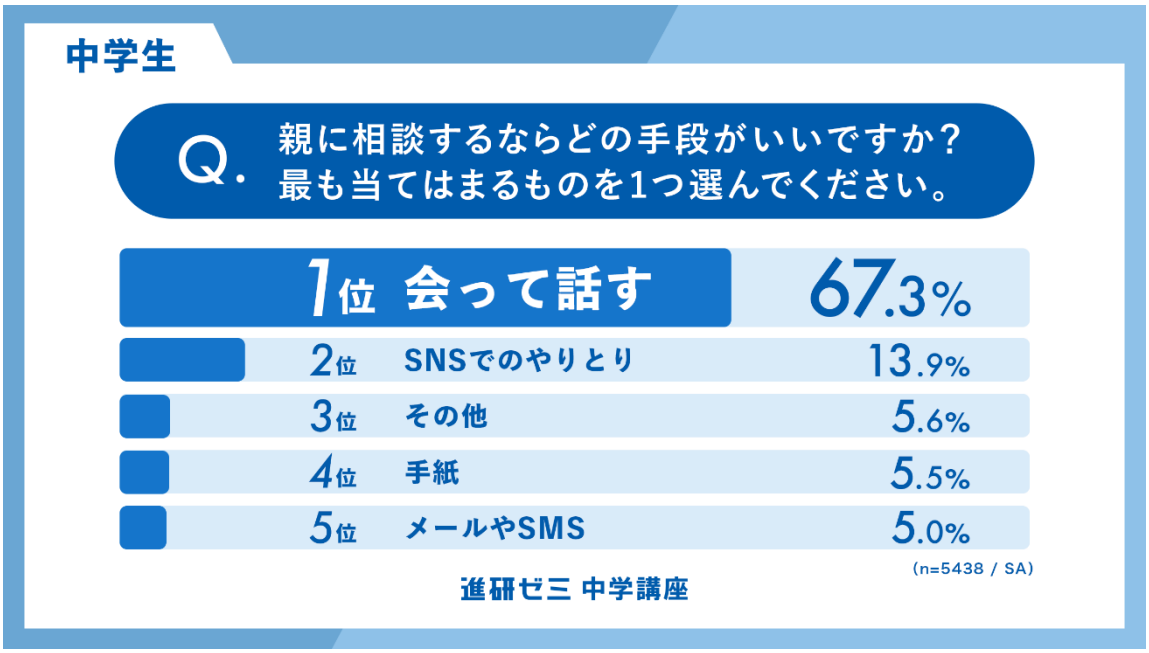
■価値観が異なると感じるものは、親子共に上位 2 項目が「勉強のしかた」、「スマホの使い方」次いで中学生は「SNS に対する考え方」、保護者は「人との距離感」

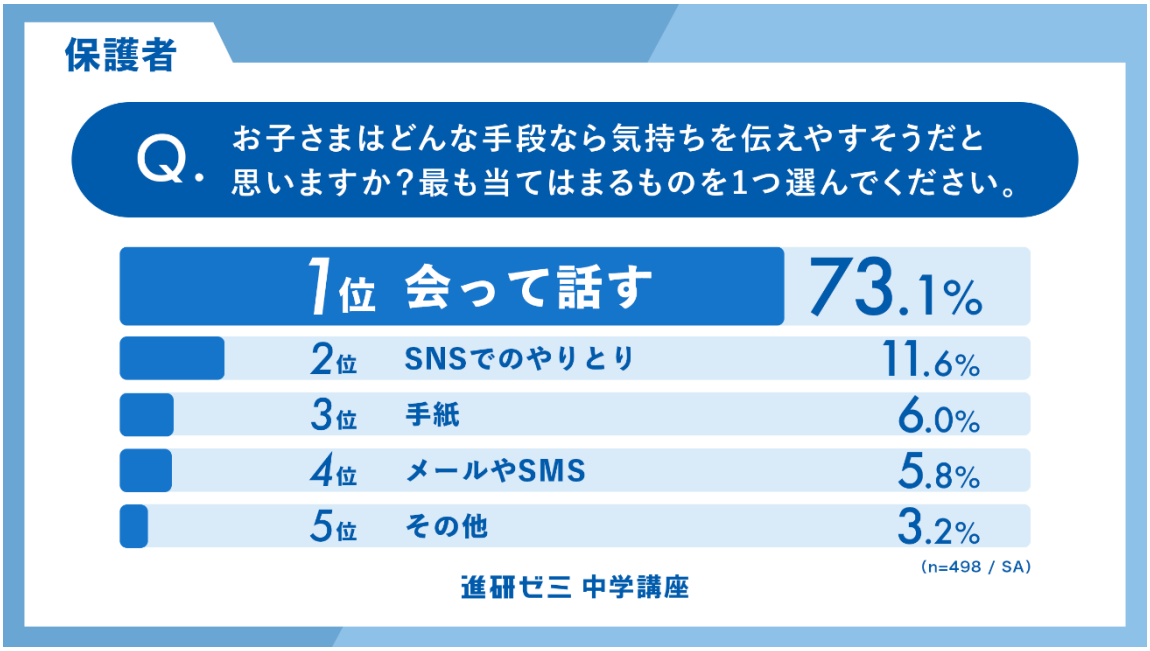
親子間で「価値観が違う」と感じる項目をたずねたところ、親子共に上位は「勉強のしかた」と「スマホの使い方」でした。一方で、中学生の 3 位に挙がった「SNS に対する考え方」は、保護者では 6 位にとどまっています。この結果から、**SNS が生活の一部となっている中学生と、そこまで強く意識していない保護者との間に温度差がある**ことが明らかになりました。



■デジタルが普及した令和の時代でも最も有効なコミュニケーション手段は「直接会って話す」こと

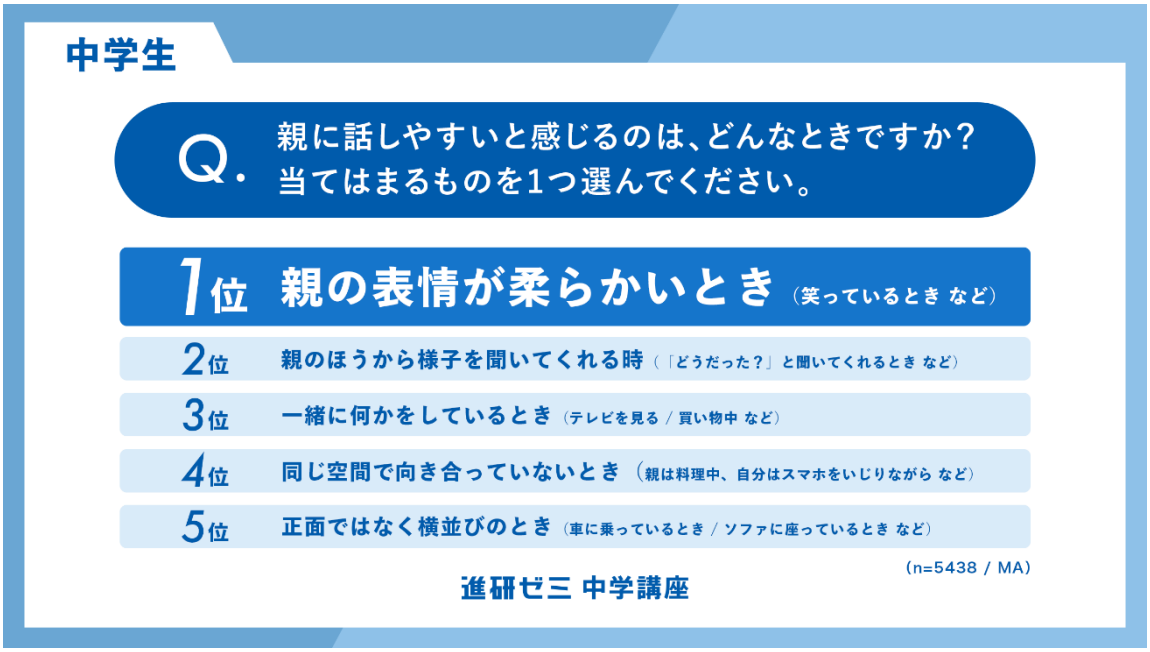
SNS でのやりとりが身近な令和の中学生ですが、親への相談に関しては 67.3%が「会って話す」を選びました。保護者側でも 73.1%が同じ回答をしており、デジタル社会の中にあっても、親子の大切なコミュニケーションの場面では「直接の会話」が欠かせないと感じていることが浮き彫りになりました。



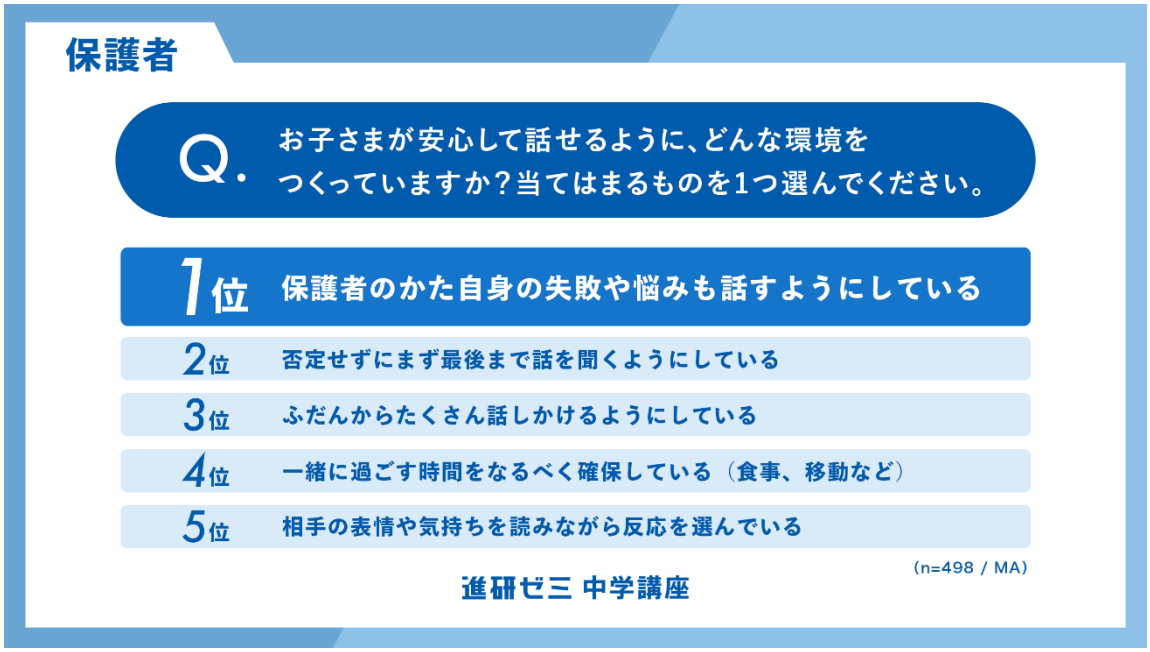


■子どもは“自然な空気”を重視、保護者は“意識的な工夫”を重視

中学生に「親に話しやすいと感じるとき」を聞いたところ、最も多かったのは「親の表情が柔らかいとき」でした。一方で保護者は「否定せずに最後まで聞く」「自分の失敗も話す」といった工夫を挙げています。



親は工夫や努力で環境を整えようとする一方で、中学生は“表情が柔らかいとき”“一緒に過ごす自然な時間”といったシンプルな要素を重視しており、ここに親子の認識のギャップが見られました。つまり、子どもにとっては“特別な場を整えること”よりも“日常の中の自然な空気”が安心材料となることが示されました。



調査の結果を受けて　ベネッセコーポレーション　進研ゼミ中学講座 責任者　：高橋 祐樹

夏休みが終わり、中学生にとっては新学期が始まるこの時期、家庭内での会話は一層大切な役割を果たします。今回の調査からは、親子の双方が「直接会って話す」ことを信頼している一方で、保護者は「工夫や努力」、中学生は「自然な空気」を重視するなど、認識に違いがあることが浮き彫りになりました。

こうした違いを前提にしながらも、日常の中でのさりげない会話こそが、子どもにとって安心や信頼の基盤となります。新学期の生活に向けて、ぜひご家庭での自然なコミュニケーションを意識していただければと思います。

■調査概要

※1 <中学生>

対象：「進研ゼミ 中学講座」会員の中学 1 年生～3 年生 5,438 人 （「進研ゼミ 中学講座 中高一貫」を含む）

期間：2025 年 8 月 8 日～14 日

方法：インターネットでのアンケート調査

※2 <保護者>

対象：ベネッセの保護者向けアプリ「まなびの手帳」に登録している、中学 1～3 年生の保護者 498 人 （中高一貫を含む）

期間：2025 年 8 月 13 日～19 日

方法：インターネットでのアンケート調査

■「進研ゼミ 中学講座」 https://chu.benesse.co.jp/

中学生利用者数 No.1※の「進研ゼミ 中学講座」は、一人ひとりのテスト日程や目標、取り組み時間に合わせて、専用の学習プランを自動で生成。「上手な勉強の仕方がわからない」と感じるお子さまでも迷うことなく学習に取り組める講座設計。自分のペースで学びながらも、1 回 1 回のテストの本番で確実に結果を出し、志望校合格につなげられる教材にこだわり続けています。

※個人で申し込んで 2025 年 4 月に利用した学校・参考書・問題集以外の学習法において、中学生の利用率を調査。文部科学省「令和 6 年度学校基本調査」の生徒数を用い利用者数を推計。比較した事業者は矢野経済研究所「2024 年版教育産業白書」をもとに選定。

（調査委託先：(株)マクロミル、中学生の保護者 12,527 名が回答、インターネット調査で 2025/6/4～6/13 実施）